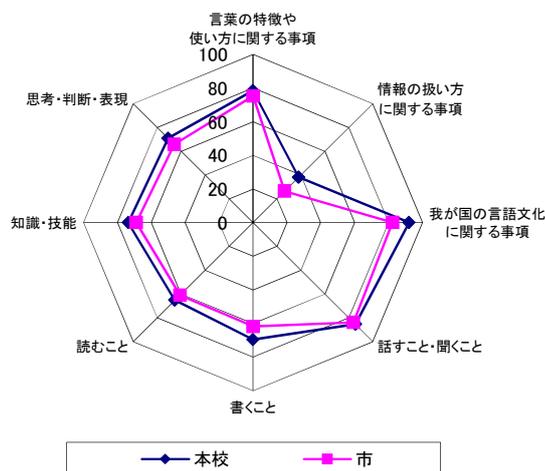


宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.5	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	38.2	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	92.1	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	85.5	83.9	84.2
	書くこと	69.5	61.7	64.5
	読むこと	65.1	60.9	61.0
観点別	知識・技能	73.7	68.8	70.3
	思考・判断・表現	71.0	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

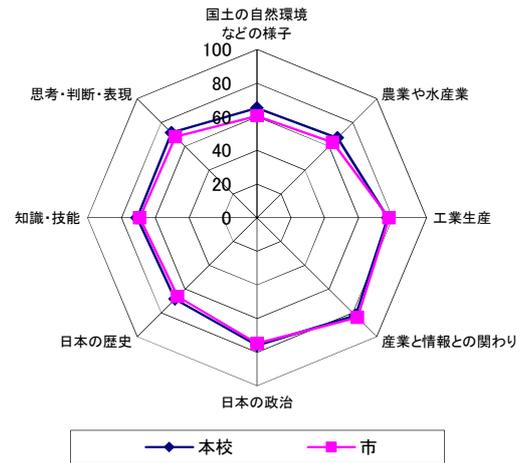
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は78.5%で市の平均を3.2ポイント上回っている。 ○漢字の読みの問題においては、正答率が高く市の平均をほぼ上回っている。 ●漢字を書く問題においては正答率が5割程度と低く、市の平均を下回っている。 ○文と文との接続の関係を理解しているかを問う問題においては正答率が82.9%で市の平均を14.2ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習漢字についても折に触れて取り上げ、練習問題に繰り返し取り組ませることで、より一層の定着を図る。 ・文章の中で漢字を使うよう意識させることで、正しく漢字を活用する力を高める。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は38.2%で市の平均を11.7ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く設問では、市の平均を18.1ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた情報を選び、情報と情報の関係について正しく理解し、文章にまとめることができるような機会を、他教科でも継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は92.1%で市の平均を9.7ポイント上回っている。 ○和語・漢語・外来語についての理解を問う設問では、市の平均を9.7ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も和語・漢語・外来語の語句の由来に関心を持ちながら、それぞれの特徴を理解して活用できるように指導していく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は85.5%で市の平均を1.6ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができているかについては、市の平均を4ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは、相手の回答を自分の言葉で表現し直して、話の要点を確認するような活動を取り入れていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は69.5%で市の平均を7.8ポイント上回っている。 ○自分の意見とその理由を明確にして書く設問では、市の平均を11.8ポイント上回っている。 ●予想される反論とそれに対する自分の考えを書く設問では、市の平均を7.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された長さや段落構成などの条件を守って、時間内に書くことができるよう、身近なテーマで小作文を書き、文章を書くことに慣れさせていく。 ・自分の意見と理由を明確にもって、友達と討論するような機会を意図的に増やす。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は65.1%で市の平均を4.2ポイント上回っている。 ○説明文の叙述を基に文章の内容を捉える設問では、市の平均を11.9ポイント上回った。情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問では市の平均を5.2ポイント上回った。 ●登場人物の様子について、描写を基に捉える設問では、市の平均を1.7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文では、文章全体の構成を捉えたり、叙述を基に文章の内容を捉えたりする指導を継続して行っていく。 ・慣用句を使った状況の叙述を読み取ることができるように、読書の機会を増やしたり、言葉の知識を増やしたりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	65.3	60.5	65.8
	農業や水産業	67.1	63.3	66.0
	工業生産	77.2	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	82.2	83.8	76.6
	日本の政治	76.0	74.9	74.1
	日本の歴史	68.4	66.3	68.3
観点別	知識・技能	70.8	69.3	71.4
	思考・判断・表現	71.4	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

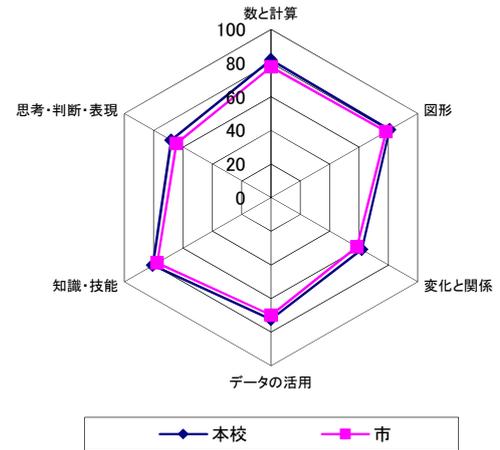
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>○領域全体の正答率は65.3%で、市の平均を4.8ポイント上回っている。</p> <p>○森林を守るための間伐について理解を図る問題の正答率は96.1%で、市の平均を13.4ポイント上回っている。</p> <p>●季節風についての理解をもとに太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る問題の正答率は51.3%で、市の平均を4.1ポイント下回っている。</p>	<p>・意図的に地図帳を活用しながら学習を進めることで、地図を読む習慣を身に付け、地理に関する基礎的な知識の向上を図る。</p> <p>・日常生活において、環境問題が自分たちの生活に及ぼす影響について考える機会を設ける。</p>
農業や水産業	<p>○領域全体の正答率は67.1%で、市の平均を3.8ポイント上回っている。</p> <p>●米の品質を高める工夫についての理解を図る問題の正答率は75.0%で、市の平均を11.4ポイント下回っている。</p>	<p>・語句の内容を捉えやすくするため、身近な例を踏まえながら考えられる機会を設ける。</p>
工業生産	<p>●領域全体の正答率は77.2%で、市の平均を0.7ポイント下回っている。</p> <p>○自動車の製造工程に関する問題の正答率は94.7%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。</p> <p>●日本の主な輸出品・輸入品に関する理解を図る問題の正答率は51.3%で、市の平均を5.2ポイント下回っている。</p>	<p>・複数の資料を読み取り、それらを関連付けて考える機会を設ける。</p> <p>・グラフや表などの資料を扱った問題に取り組む機会を設けて、資料を活用する力が更に身に付くようにしていく。</p>
産業と情報との関わり	<p>●領域全体の正答率は82.2%で、市の平均を1.6ポイント下回っている。</p> <p>○情報の発信と受信の注意点について考える問題の正答率は94.7%で、市の平均を1.8ポイント上回っている。</p> <p>●産業における情報活用の現状について考える問題の正答率は69.7%で、市の平均を5.1ポイント下回っている。</p>	<p>・日常生活において、インターネットを活用することで得られる利点にはどのようなものがあるのか考える機会を設ける。</p>
日本の政治	<p>●領域全体の正答率は76.0%で、市の平均を1.1ポイント上回っている。</p> <p>○租税の役割について、資料をもとに考え表現する問題の正答率は75.0%で、市の平均を3.5ポイント上回っている。</p> <p>●基本的人権の尊重について理解を図る問題の正答率は76.3%で、市の平均を5.0ポイント下回っている。</p>	<p>・日本国憲法や日本の政治が自分事として捉えられるように、授業内容に応じて身近な教材を効果的に活用できるようにしていく。</p>
日本の歴史	<p>○領域全体の正答率は68.4%で、市の平均を2.1ポイント上回っている。</p> <p>○大和朝廷による統一についての理解を図る問題の正答率は75.0%で、市の平均を12.4ポイント上回っている。</p> <p>●室町時代の水墨画を描いた人物を答える問題の正答率は48.7%で、市の平均を4.9ポイント下回っている。</p>	<p>・歴史上の出来事が起こった社会背景と、その時代の文化を関連付けられるように、資料を活用しながら授業を展開していく。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.9	77.7	78.6
	図形	80.8	78.4	74.4
	変化と関係	61.8	58.7	53.0
	データの活用	72.4	69.9	57.2
観点別	知識・技能	80.5	77.5	74.0
	思考・判断・表現	68.0	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

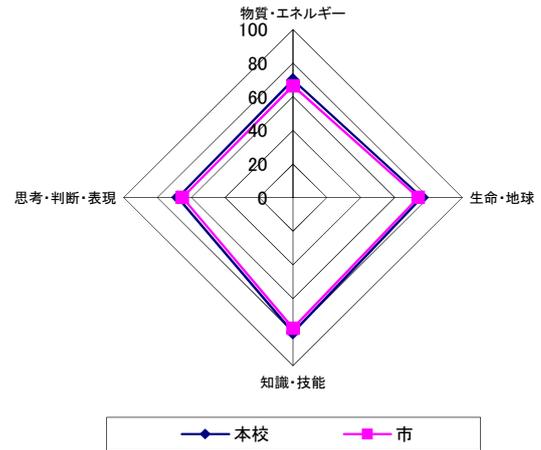
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域全体の正答率は81.9%で、市の平均を4.2ポイント上回っている。</p> <p>○小数第一位÷小数第一位＝小数第一位の計算をする問題の正答率は93.4%で、市の平均を8ポイント上回っている。</p> <p>○すべての設問が、市の平均を上回っている。</p>	<p>・計算プリントや繰り返しドリルなどを活用して、何度も問題に取り組ませ、様々な技能を確実に身に付けさせるようにする。</p> <p>・グループやペア学習での話し合いを通して、他者への説明をすることにより理解度を上げる。</p> <p>・いろいろな計算の決まりを使いながら、簡単に素早く計算できる方法で問題に取り組ませる。</p>
図形	<p>○領域全体の正答率は80.8%で、市の平均を2.4ポイント上回っている。</p> <p>○合同な三角形を作図する設問の正答率は、97.4%で、市の平均を7.5ポイント上回っている。</p> <p>●図に示された六角形の内角の和の求め方を表す式を選ぶ設問の正答率は69.7%で市の平均を2.2ポイント下回っている。</p>	<p>・図などから解答を求める設問では、図などの中に書き込まれていない必要な情報を書き足しながら考えることを習慣化していくよう指導する。</p> <p>・いろいろな図形の公式をそのまま覚えるのではなく、児童に考えさせる場面を取り入れ論理的な思考力が身に付くよう指導する。</p>
変化と関係	<p>○領域全体の正答率は61.8%で、市の平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する設問の正答率は、69.7%で市の平均を14.8ポイント上回っている。</p> <p>●百分率について理解し割引後の値段を求める式を選ぶ設問の正答率は63.2%で、市の平均を3.7ポイント下回っている。</p>	<p>・文章から割合や速さなどの分かっていることを読み取り、文章通りに式に表したり、言葉の使い方や言い回しを変えたりすることで、児童の理解力を高める指導をする。</p> <p>・もとにする量を1とみたときの、比べられる量を常に意識させながら割合の関係を立式させることで、理解を深めさせる。</p>
データの活用	<p>○領域全体の正答率は72.4%で、市の平均を2.5ポイント上回っている。</p> <p>○表から平均を求める設問の正答率は90.8%で、市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>●円グラフから割合を読み取る設問の正答率は84.2%で、市の平均を5.9ポイント下回っている。</p>	<p>・グラフの読み取りが苦手な児童には、拡大したグラフや他のグラフへの置き換えを行い、分かりやすく表現することで理解度を高める。</p> <p>・算数だけでなく、社会科など他教科でのデータの読み方を通して、その見方の理解を高める。</p> <p>・日常生活の事象について、目的に応じたデータ収集を心掛け、観点を決めて分類整理する活動を日頃から取り入れることで、データの特徴や傾向など、読み取りの能力を高める。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.9	66.5	66.3
	生命・地球	76.0	74.0	72.6
観点別	知識・技能	80.3	77.6	78.2
	思考・判断・表現	68.0	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○領域全体の正答率は69.9%で、市の平均を3.4ポイント上回っている。</p> <p>○振幅を変えたとき振り子の周期はどう変わるかについての設問では、正答率は76.3%で、市の平均を12.6ポイント上回っている。</p> <p>○メスシリンダーの使い方やろ過の正しい操作についての設問では、正答率は88.2%で、市の平均を13.3ポイント上回っている。</p> <p>○電磁石の性質についての設問では、記述式設問の正答率は77.1%で、市の平均を12.4ポイント上回っている。</p> <p>●電流の大きさやコイルの巻き数による電磁石の力の変化についての設問では、正答率は61.8%で、市の平均を8ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題から予想し、実験・観察の結果から考える活動を今後も継続し、科学的な思考力をさらに高めていく。 実験のねらいや目的を明確にし、調べる方法を考え工夫する活動を多く取り入れ、児童が主体的に学習できるよう、授業改善に努める。 実験結果から考察する際に、友達や他のグループと比較したり、考えを交流したりする機会を今後も意図的に設け、互いに学び合いながら結論を導き出せるようにする。 正答率が低かった単元については、重点的に学習し、知識・技能の向上と定着を図る。
生命・地球	<p>○領域全体の正答率は76.0%で、市の平均を2.0ポイント上回っている。</p> <p>○台風の発生や進路についての設問では、正答率は86.6%で、市の平均を8.2ポイント上回っている。</p> <p>○月の満ち欠けのモデル実験に関する設問では、正答率は97.4%と高く、市の平均を3.5ポイント上回っている。</p> <p>○くきを縦に切ったときの断面の様子についての設問では、正答率は71.1%で、市の平均を8.3ポイント上回っている。</p> <p>●消化の意味についての設問では、正答率は55.3%と低く、市の平均を5.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験を通して、身近な自然事象に対する興味関心を更に高めていく。 観察や実験の結果をもとに、実生活や実体験と結び付けて考えるよう促し、理解を深め知識の定着を図るとともに、科学的なものの見方や考え方を生活に生かせるようにしていく。 「ヒトや動物の体」は、理解が難しい単元なので、今後も重点的に指導をしていく。

宇都宮市立上戸祭小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・字数を制限したり短い言葉で要点をまとめたりしながら文章を書く活動を取り入れている。 ・基礎的な知識の習得を図ることに加えて、指定された用語を用いて文章記述を行う活動を意図的に取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の国語では、自分の意見とその理由を明確にして書く設問の正答率が市の平均を上回った。 ・6年生の算数では、多角形の角の和を求める考え方を記述する問題の正答率が低かった。
自ら考え、交流し、学びを深められる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しを持って学習し、自力解決できるような課題設定や授業展開を工夫している。 ・一人一台端末を利用するなどして、考えの交流を行っている。自分の考えを吟味したり互いのよさを見付けて、自分の表現に生かしたりしながら考えを深められるように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」、「ものを比べながら考えている」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合が、市の平均を上回った。(3・5年生)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「導入を工夫した授業展開、身近な生活の場に置き換えられるような学習課題の設定」に注力してきたことから、どの学年も「教科の学習は将来のために役立つ」と肯定的に答えている。今後も、児童の興味関心を高め、児童が「学びたい」と感じるような課題を設定学習するとともに、内容を日常の事象と結び付けて考えたり、自分事として捉えたりできるよう努めていきたい。
- ・用語を正しく使って過不足なく説明する力や、言葉の知識量に課題が見られたため、次年度は、基礎的な知識の習得を図るとともに、幅広く読書を行うことで、言葉の知識や語彙力を高められるようにしていきたい。
- ・学年差はあるものの、「授業で習ったことはその日のうちに復習している」と肯定的に答えた児童の割合が低い傾向にある。次年度は、宿題の出し方や自主学習の取り組み方についてさらなる工夫を図っていきたい。